

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年5月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1575900210
法人名	有限会社 五輪
事業所名	グループホーム ゆうゆ
所在地	新潟県中魚沼郡津南町外丸丁1458 (電話) 025-765-3557

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 2月 21日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 17人
職員数	13人 常勤 13人、非常勤 0人、常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ 造り
	2階 建ての 1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (19年 10月現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	8 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 64 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津南町立津南病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは道路を挟んでJR津南駅のむかいにある。住宅街の中にとけ込んでおり、地域の商店や住民と交流しながらの生活ができる環境である。また、自然豊かな美しい場所であり、訪問時は冬の時期であり、近くの山々のすばらしい雪景色を堪能することができた。建物は商店だった建物を改修して造られており家庭的な雰囲気がある。また、温泉を引きこんでおり、利用者が毎日温泉を楽しむことができる。職員は、サービスの質の向上や利用者個々のケアについて会議やミーティングで協議し随時話し合いを行っており、管理者や、現場チーフである計画作成担当者を中心に職員がのチームワークがよく取れており、十分にコミュニケーションを図りながらホームの運営がなされている。住み慣れた地域でこれまでの生活を継続しながら、利用者一人ひとりがありのままに心地よく過ごせるようなサービスを提供し、また、利用者の可能性を引き出して自立した生活を送れるよう支援している。利用者が安心して過ごせる温もりのあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域に対して運営理念を啓発する取り組みが十分ではない点が、前回評価での改善点として挙げられていた。現在、地域に向けた広報誌の発行を予定しているところであり、今後、広報紙等を通じてホームの理念や地域における役割を伝え、地域の社会資源としての理解浸透・活動の広がり期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、会議等で職員に話がされているが、管理者と計画作成担当者が主となり実施した。今後は、評価のねらいや活用方法等について他の職員の理解をさらに深め、全職員で自己評価を実施し、サービスの振り返りや質の向上に活かして欲しい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議において、ホーム内の取り組みを紹介したり、現況の報告を行っている。メンバーには、利用者や利用者家族の代表、行政や民生委員、地域の代表者等が参加しており、要望、意見等は会議の中で話し合わせ、運営に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>現在、家族からの苦情等はあがってきていないが、意見等があればミーティングにおいて確認しあい、運営に活かす体制ができています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りに出かけたり、小学校・中学校の運動会に応援に行ったりと地域の行事には積極的に参加している。また、隣組にも加入したり、ホームのクリスマス会や納涼祭に小学生が参加するなど、地域の方々との交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者は、以前していた百貨店を閉店するにあたり、お世話になった地域への恩返しをしたいという思いからホームを開設した。馴染みの地域で、ありのまま気楽に生活してほしいという思いを理念にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、計画作成者、職員は日頃からよくコミュニケーションを図り、理念の共有とその実践に努めている。		
	2 - 2	3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、毎月個別にお便りを書き、ご利用者の様子を伝えたり、理念について伝える取り組みをしている。地域に対しては、運営推進会議において理解してもらえるよう努めているが、地域住民に向けての理念浸透の取り組みはこれからの段階である。		地域に理念を浸透させていくうえで広報誌の必要性を認識している。まだ作成までには至っていないので、今後の取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
	3	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや駅伝大会、小中学校の運動会の応援に参加したり、ホームのクリスマス会や納涼祭に地域の方や子ども達にも参加してもらい、交流を図っている。隣組に入り、回覧板が回ってくる中で情報を得ている。過去の地震の際は地域の方が心配して来てくれ、支援してくれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、会議等で職員に話がされているが、管理者と計画作成担当者が主となり実施した。		今後は、サービス評価の意義や活用方法等について他の職員の理解・認識をさらに深め、全職員で自己評価に携わり、実践に活かしていく取り組みを期待したい。
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現況等を報告している。利用者や利用者家族の代表、行政、民生委員、地域の代表者等が参加しており、要望・意見を聴き、運営に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当課とは毎月行われる地域ケア会議で情報交換を行いながら連携を図り、サービスの向上に活かしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については外部の研修会に参加し、学んだことは伝達講習で職員全体に伝えている。また、利用者に対する言葉の使い方について適切でない場合は、現場チーフである計画作成担当者がその場で注意して防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月必ず、居室担当職員がお便りで利用者の生活の様子を報告している。健康面については、看護師でもある現場チーフが報告し、金銭面については立替払い分を報告している。状況によっては電話等で連絡・報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見・要望等をお聞きしている。また、苦情受付の説明を行ったり、毎月のお便りに家族からの意見要望欄を設け、記入できるようにしている。寄せられた要望等は、運営に活かしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議を定期的に行い、管理者、計画作成担当者は職員の意見をよく聴いている。車両や物品の購入など、職員の具体的な提案が運営面で活かされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで離職は少ない。ユニットを増やした時に職員の異動があったが、その際はよく説明を行い、利用者への影響がないよう配慮した。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルがあるが、一般的なものであり、ホーム独自のマニュアル作成や見直しが十分ではない。		介護マニュアルや感染症対策等について、実際に活用しやすいようホーム独自のマニュアルを作成するとともに、ホームの現状に即したものとなるよう随時見直しをすることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の基礎については現場チーフが講師となって研修を行っている。認知症ケアについては、職員が外部研修に参加する機会をもつようになっている。また、研修会参加後は伝達講習を行い、職員全体に伝わるようになっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南魚沼市を含めた近隣地域のグループホーム職員が集まる「グループホームの集い」が年4回開催されており、そこで交流を深めながら情報交換等を行い、サービスに活かしている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が管理者、計画作成担当者に話をしやすい雰囲気を作られており、何かあれば直接話をする事で職員のストレス発散がなされている。また、年3回は親睦会を開き、職員の親睦を深めストレスを軽減する機会としている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に、本人、家族からホームを見学して頂いている。本人がホームに来れない場合は計画作成担当者が面談に行き、ホームについて丁寧に説明するとともに、顔馴染みの関係づくりをし、安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から郷土料理を教えて頂いたり、昔話や風習をお聴きするなどし、相互に支えあう関係が築かれている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的に、個別にお便りを出したり電話連絡を行い、生活の様子を伝えている。その際、意見・要望があればお聞きしてケアに取り入れるなど、本人を共に支える関係づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用したり、本人から聴けない場合はご家族から情報を得るなどして、暮らし方について希望・意向を把握するように努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴については、計画作成担当者が聴き取り、サービスに反映している。また、日頃から利用者との会話からこれまでの暮らしについて把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用本人や家族から生活歴を聴いたり、センター方式のアセスメントを活用して情報を収集し、職員の意見を聴きながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については随時見直しを行い、ミーティング等で話し合われた内容はノートに記してあったが、介護計画書への記入が不十分である。		本人や家族、職員等関係者が共有してサービスを実施できるよう、ケアの変更や追加などの見直しの内容は介護計画書にも記入することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を柔軟に行なっている。また、状況により家族が通院に付き添えない場合は職員が同行したり、家族が来訪する都合に合わせて面談できるよう、担当職員や計画作成担当者が休日出勤や勤務変更を行なうなどして対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への継続的な受診や、本人・家族の希望による受診を支援しており、状況に応じて家族に代わって職員が通院付添を行なっている。家族が通院に付添う場合は、ホームでの様子を手紙に記し、医師に伝えるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、重度化した場合についての話し合いを行っている。利用者の状態が重度化した場合、家族と話し合い、かかりつけ医とも連携を取りながら方向性を共有するように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう、職員は十分な配慮をしている。記録等の個人情報は、外部に流出しないよう保管場所を徹底して管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう支援している。食事の時間や余暇の過ごし方も、利用者に合わせてゆったりと行えるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物には利用者も一緒に出かけ、食事準備も職員とともにしている。勤務している職員全員が利用者と食卓を共にし、楽しい雰囲気ですべてをとっている。後片付けも、利用者それぞれが役割を持ち、職員と一緒にしている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツの方は様子を見ながら、トイレで排泄できるよう支援している。自立されている方は本人に任せているが、失敗した時は職員が周囲に気を配りながら対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は18:00頃まで入ることができ、希望によって毎日入ることもできる。ホームの風呂に温泉を引き込んでおり、日々利用者が温泉入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、掃除などを役割として行なってもらったり、また、男性は囲碁を楽しんだり、山菜の好きな方にはぜんまい等を茹でていただいたりや生活の中に張り合いが持てるよう支援している。今後、畑を借りて様々な野菜を利用者と一緒に作る予定である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物には毎日出かけている。また、暖かい時季には月1～2回はドライブに出かけ、近くにあるひまわり畑やコスモスを見に行くなどしている。家族がなかなか面会に来られない利用者には、実家へ訪問支援も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現場チーフから職員へ身体拘束について話を学習しており、新しく入った職員もよく理解している。身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけていない。利用者が外に出られたときは、職員がさり気なく様子を見ながら、行動を共にするなどして対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故があった場合は、報告書を作成し、必ずミーティングで話し合っている。報告書は職員全員が確認している。月1回の業務会議においても再度報告を行い、事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変時の対応については看護師である現場チーフから具体的な指導が行われている。職員は定期的な訓練を受けており、自信をもって対応することができる。また、状況によってはチーフ職員から指示をもらいながら対応することもできる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	避難訓練は、消防署の協力を得ながら年2回行っており、利用者が安全に避難できるよう努めている。地域から協力を得られるような体制づくりについては、働きかけが十分ではない。		災害時に近隣の方々から協力が得られるよう、地域との連携体制づくりへの取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を記録し、把握している。摂取量が不足している場合は、プリンや葛湯など、個々の利用者が食べやすいものを食べやすい形にして提供するなど、摂取量を補うよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の明るさは適度であり、テレビの音も適切に調整されていた。雛人形が飾られたり、絵画がかけてあり、季節感や生活の潤いが感じられる家庭的な雰囲気づくりがされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、馴染みの物を自宅から持ってきていただいている。それぞれの居室には家族の写真や調度品が飾られ、居心地の良い空間づくりがされている。</p>		